



No.114 2021.7.6

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU
明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）は平成 29 年の法改正により、その設置が努力義務となって以降全国的に設置数は増加傾向で、保護者や地域住民の学校運営への参画や地域と学校が連携・協働した取組が行われるなど成果がでてきています。一方で、コミュニティ・スクールを始めとした地域と学校の連携・協働体制の在り方や進捗に地域や学校種の差があることなど課題も見えてきています。「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会」は、法改正後 5 年を迎え、これらのコミュニティ・スクールを取り巻く状況を踏まえ、今後の学校運営協議会の活動の充実に向け文部科学省が外部有識者の協力を得て検討を行うために設置したものです。

検討事項として、

- (1) コミュニティ・スクールの在り方について
- (2) コミュニティ・スクールの設置促進、活動の充実について
- (3) その他、地域と学校の連携・協働に関することについて

の 3 つがあげられ、これまでに 3 回の検討会が開かれ検討が重ねられ、その第 3 回でコミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議中間まとめ（骨子案）が検討されました。（https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_chisui02-000016237_8.pdf）

その中間まとめの中でコミュニティ・スクールの推進の必要性やこれからのコミュニティ・スクールの在り方等について今後の検討事項が次のようにまとめられています。

（一部抜粋）

◎コミュニティ・スクール推進の必要性

（学校を取り巻く状況）

○ 現在の学校においては、「社会に開かれた教育課程」の実現を始め、新学習指導要領の着実な実施、学校における働き方改革の推進や GIGA スクール構想の実現は喫緊の課題であり、その他にも不登校やいじめ、児童虐待への対応など、学校経営の困難さは年々増している。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染症対策の徹底と子供たちの健やかな学びの保障の両立など、学校では様々な取組が進められている。

（コミュニティ・スクールの意義、役割）

○ コロナ禍だからこそ見えてきた学校の本質もある。校長や教職員だけではなく、保護者や地域住民が参画し、目標の共有・その目標達成のための対話・協働、そして評価する令和型の新たな学校改革が必要。スクール・ガバナンスを確立し、自律的な学校への転換のためにコミュニティ・スクールの意義がある。

- 震災復興の中でコミュニティ・スクールは非常に重要な役割を果たした。防災活動に地域との協働は確実に欠かせないものであり、コミュニティ・スクールが重要な役割を果たす。
- 次代を担う子供たちに必要な資質・能力を育むためには、コミュニティ・スクールを活かした学校運営が重要。また、コミュニティ・スクールの機能を活用することで、地域の目標を共有し、特色ある教育課程を再編し、地域の人的、物的資源を活用した教育活動を展開することができる。
- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動は、学校改革のツールとして、全ての学校や校長に求められる。

◎これからのコミュニティ・スクールの在り方（今後の検討事項）

（総論）

- コミュニティ・スクールは学校運営の在り方、学校そのものを見直すもの。教職員や学校運営協議会の委員だけではなく、社会総掛かりで教育にかかわり、誰もが地域の教育の担い手であるという風土を作っていく原点にあるべき。
- コミュニティ・スクールは立ち上げることがゴールではなく、継続性を持つ仕組みとして地域に根差したものとしていくことが重要。
- 学校運営協議会の導入率が高い地域でも形骸化していることもあるのではないかと。形骸化させないための仕組みを視野に入れた導入や展開が必要。

（これからのコミュニティ・スクールに求められる役割・機能）

- コミュニティ・スクールは、セクターを超えたつながりで社会課題を解決していくという実践をまさに積み重ねてきたもの。これまでの取組で得られた様々な知見をコミュニティ・スクールへ戻していくことで大きな可能性を持っている制度ではないか。
- 学校の課題について地域と学校が問化して共有し、互いにアイデアを出していけるような機能や体制を持つことが重要。
- コミュニティ・スクールの在り方を考えるにあたり、地域学校協働活動や社会教育主事の役割も重要。地域学校協働活動を盛んにしていくためには、その学校の周りに豊かな社会教育の活動があることが重要であり、社会教育主事の状況も念頭に置いて議論をしていく必要がある。学校そのものだけでなく、その周辺の社会教育の状況も議論が必要。

これらはまだ中間まとめ（骨子案）であり、今後検討会が5回開かれ12月は最終まとめが話し合われる予定ですが、今後、さらにコミュニティ・スクールの役割が議論され、今後のコミュニティ・スクールの姿ではなく、コミュニティ・スクールをツールとして創っていくこれからの学びの仕組の姿がみえてくるのではと思っています。

各校でも今年度の学校運営協議会がスタートしていますが、もう一度、学校運営協議会委員のみなさんがコミュニティ・スクールの理解を深める研修でもこの中間まとめ（骨子案）は使えるのではと考えています。校内研修でまた保護者・地域の啓発の資料として活用するために、一度原本を読んでいただけたらと思います。

最近知ったのですが、コミュニティ・スクールの推進が市長選の公約の柱となった市もあり、社会の枠組・仕組が変化し始めていることにビックリです。（文責：北本）